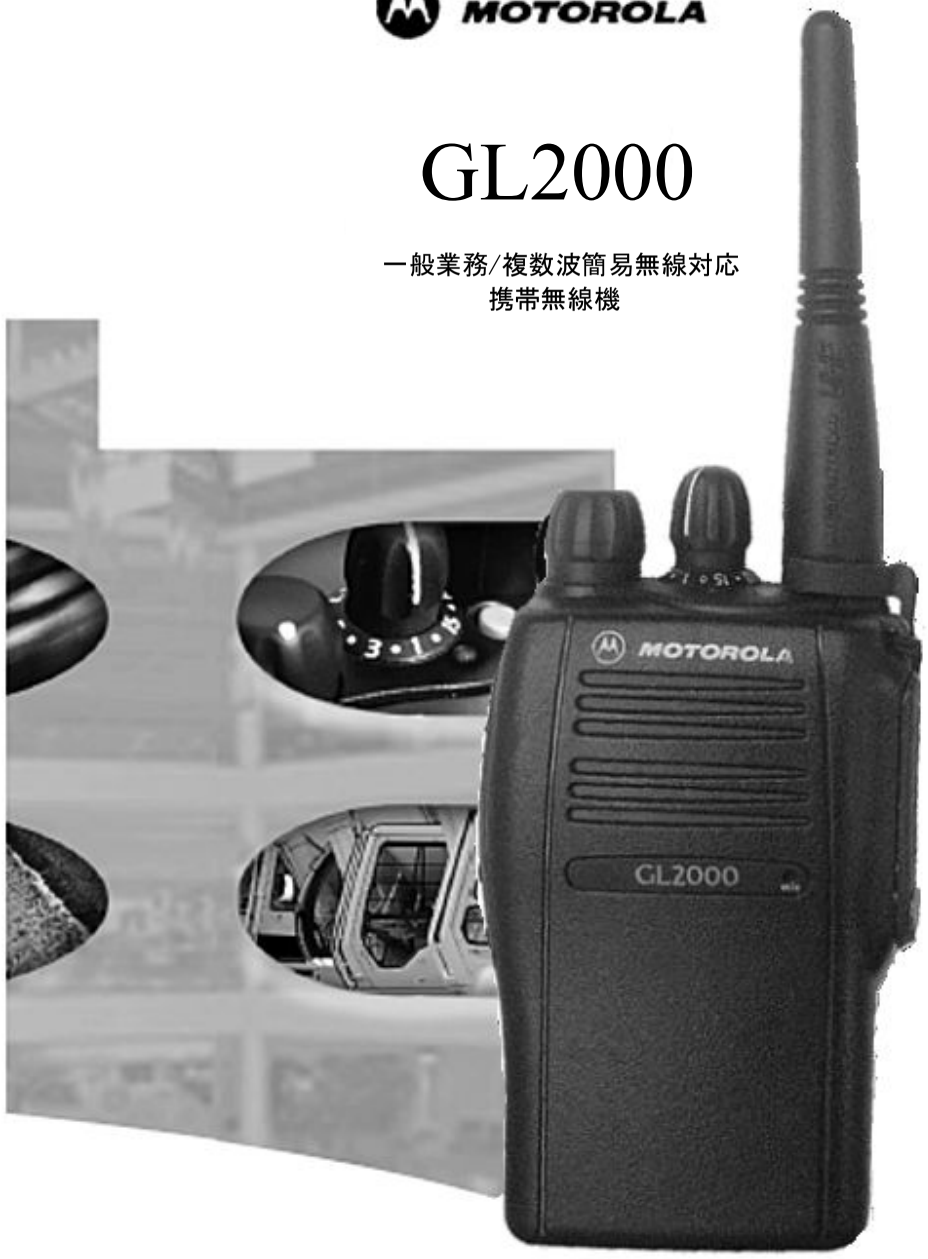
MOTOROLA

GL2000

一般業務/複数波簡易無線対応
携帯無線機



GL2000 の詳細と価格は

towa

モトローラ無線機
プレミアディーラー
株式会社トーワ

無線機のトーワ　検索

http://www.towa-inc.net/
http://www.towa-inc.net/1f/5f/gl2000-o.htm
mail@towa-inc.net

本　社
〒583-0991　大阪府南河内郡太子町春日98－362
tel 0721-98-1317 fax 0721-98-1373

日本橋ショウルーム
〒556-0005　大阪市浪速区日本橋4－17－9
tel 06-6632-5115 fax 06-6632-5110

MOTOROLA

モトローラ・ビジネスユニット

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、モトローラのロゴマークおよびM表記が付された商標はモトローラの登録商標です。文中に記載されている他社の商標名やサービス名称は、各社の商標または登録商標です。
本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」（日本）および「米国輸出管理規則」による規制を受けますので、輸出等を行なう場合は、同法に基づく手続きが必要です。

発行元　株式会社スタンダード　東京都目黒区中目黒4-8-8

6804022G47-B

©2008.5　STANDARD Co., Ltd.

JM-1

はじめに

このたびはモトローラ（株）の携帯用無線機GL2000をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

GL2000は信頼性および操作性に優れた小型で丈夫な無線機です。

本書はGL2000の標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。ご使用前に必ずお読みください。

> 本書の中で説明している無線機の機能で、お客様が現在お持ちの免許の使用制限により、使用できない機能があります。詳しくはお買い求めの販売店までご相談ください。

●ご注意

- 通話は、無線局免許状に記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行なうときはこのような制限はありません。
- 他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
- 他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
- 本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令に違反します。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

危険 この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

警告 この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

注意 この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

お願い 性能を十分発揮できるように、お守りいただきたい事項です。

安全上のご注意

●GL2000本体をお使いいただく前に

安全で効率的な操作を行う上で重要な情報です。携帯用無線機GL2000をご使用になる前に以下の注意をお読みください。
無線を安全かつ効率的に操作するために、以下の指針をお守りください。
携帯用無線機GL2000の電源がONになっているとき、無線周波（RF）エネルギーを送・受信しています。使用している周波数は136MHz帯（VHF）から470MHz帯（UHF）の範囲を使用し（機種によって範囲が異なります）、通信する際に制御装置が無線機の送信出力を制御します。出力レベルは1W～4W(UHF)/5W(VHF)です。

◎無線周波数における電磁波の照射

1996年8月、アメリカ連邦通信委員会（FCC）は、「報告命令書FCC96-326 」の決定に基づき、FCCの許可した無線機から放射される電磁波を人体が受ける際の安全基準について新基準を採用しました。さらに、非電離放射線防護国際委員会（ICNRP）は、無線周波数の照射ガイドラインを含む基準を定めました。モトローラの携帯用無線機GL2000は、こうした基準に適合しています。

⚠警告

必ず、下記の警告事項をお読みになってからご使用ください。

◎運転中のご利用について

自動車運転中の無線機利用については、その地域での条令などをご確認ください。自動車運転中に無線機をご使用になる場合には、安全な場所に車を停車させてから無線通信を行ってください。交通事故の原因となることがありますので運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でご使用ください。

◎爆破区域および爆発性のある危険地帯

爆破区域内および可能性のある危険地帯での無線機の使用は、爆破物への引火の危険性をともなうので、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。また、バッテリーの交換やバッテリーの充電もしないでください。無線機あるいはその付属品によりスパークが発生し爆発を誘発する危険性があります。

◎爆発の危険性がある大気状態

爆発性ガスなど大気状態に爆発の危険性がともなう区域では、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。また、バッテリーの交換やバッテリーの充電も

しないでください。無線機あるいはその付属品によりスパークが発生し爆発を誘発する危険性があります。
危険地域には、石油コンビナート、船舶のアンダーデッキ、燃料や化学物質の輸送・貯蔵施設、穀物や粉じん、金属粉などの微粒子や化学物質が空気中に含まれている区域などが含まれます。
また、無線機やその付属品の置かれた車内に、可燃性の気体や液体、あるいは爆発の危険性をもった物を載せて輸送したり保管したりしないでください。

◎その他使用にあたって
ゴルフ場などの野外で携帯無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。また、本無線機は直接水のかかる場所や、湿気の多い場所で使用したり、濡れた手などで本機をご使用になると故障の原因となる場合があります。（雨天、降雪、海岸、水辺などでの使用にはご注意ください。）

◎医療用および個人用電子機器との混信
医療および個人用電子機器のほとんどは、電磁波からシールドされています。ただし、十分シールドされていない電子機器については、無線機からの電磁波の影響を受ける場合があります。
アンテナから15cm以内のところにそれらの機器や他の人がいる場合、無線通信などの操作を行わないでください。
シールドされていないペースメーカ、補聴器などの個人用電子機器には、影響を及ぼす可能性があります。医療施設内や人と人が近接する満員電車の中などに入る場合、医療施設内の各種医療機器や計器あるいは個人の医療電子機器に影響を与える可能性があるため、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。詳しくはそれぞれの製造メーカーおよび販売店にご確認ください。

◎その他電子機器との混信
正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。
航空機内での運用は、航空機の各種装置や計器に影響をあたえる可能性があるため、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。

◎無線機本体について
火災や感電故障の原因となりますので、分解や改造は行わないでください。通信に支障をきたすほか電波法令に違反します。

◎付属品およびアンテナについて

付属品については弊社販売店にご相談のうえ正しく取り付けてご使用ください。

バッテリー、充電器など周辺機器については必ず専用の物をお使いください。発熱や発火、故障の原因となります。

アンテナについては付属品のアンテナをご使用ください。取り外して基準を満たしていない他のアンテナや、他の部品を付け加えるなどの改造をしたアンテナを使用した場合、通話品質を損ねたり、無線機本体に支障をきたすほか電波法令に違反します。

また、アンテナが破損した場合、その状態のままで無線機を使用しないでください。破損部分が人体等に触れたまま使用した場合、人体に損傷をきたす場合があります。

◎無線通信をするにあたって

無線機を手に持って通信する場合は、無線機のアンテナと人体頭部との距離を2.5 cm以上離して通信してください。また、ベルト等に装着して通信する場合は、無線機のアンテナと人体との距離を2.5 cm以上離して通信してください。

無線機を「使用中」の場合、人体がアンテナに触れていると通話品質が悪くなり、出力レベルが必要以上に高くなることがありますのでアンテナには触れないでください。

◎エアバック付きの自動車について

エアバックは激しい勢いで膨張します。エアバック周辺ならびにエアバックの広がる範囲内に通信機器を設置しないでください。通信機器が適切な場所に正しく設置されていないと、エアバックが膨張した際に通信機器により直接またはエアバックそのものの損傷により人体を損傷する可能性があります。

また、エアバックの寸法、形状、広がる範囲などは自動車の形式や車種によって異なりますので、自動車製造メーカーおよび自動車販売店にご相談ください。

必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

◎直射日光のあたる所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

◎接続端子に金属片等が触れないようにしてください。ショートによる火災や故障の原因になる場合があります。

◎強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。

◎アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナの部分をつかまないでください。
◎接触不良の原因となりますので、オーディオアクセサリを使用しないときには、サイドカバーを付けてご使用ください。

●バッテリーをお使いいただく前に

バッテリーはお引き渡し時には、充分充電されていません。ご購入後の充電は、14～16時間の充電が必要となります。必ず充電してからお使いください。また、バッテリーをお使いになる前に以下の注意をお読み下さい。

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあり危険です。必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。

◎充電の際には専用の充電器を使用してください。専用以外の充電器などで充電しないでください。
◎高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。
◎バッテリーの端子をショートさせないでください。持ち運ぶ際や保管する時は、端子が金属片などと接触しないようにしてください。
◎火の中に投入したり、加熱しないでください。
◎釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
◎直接ハンダ付けしないでください。
◎分解や改造はしないでください。

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあります。必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。
◎水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。
◎バッテリーを使用しない場合には、無線機本体からバッテリーを外して湿気の少ない場所で保管してください。

●取扱い上のお願い

お願い

◎電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。

◎無線機本体の清掃の際は、固めの豚毛のブラシに洗剤溶液（台所用洗剤を水に混ぜて作ったもの）を少量つけて軽くこすってください。
清掃後は、糸くずのつかない布できれいに拭き取ってください。
また洗剤の溶液がコネクタ付近、または溝や割れ目に残らないように注意してください。

◎無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。

◎溶剤やアルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

目　次

●はじめに……2
●安全上のご注意……3
●目次……8
●特長……10
●製品および付属品の確認……11

■準備編

●各部の名称と機能……12
電源・ボリュームスイッチ……12
チャンネル切替スイッチ……12
送信ボタン……12
マイク……12
ＬＥＤランプ……12
プログラマブルボタン……13
●バッテリーの取り付け/取り外し
バッテリーを取り付ける……14
バッテリーを取り外す……14
●バッテリー
バッテリーの電圧レベルを確認する……15
バッテリーを正しくお使いいただくために……15
充電方法……17
●アンテナの取り付け/取り外し
アンテナを取り付ける……20
アンテナの取り外す……20
●電源を入れる/切る……21
●音量を調整する……21
●チャンネルの切替……21
●非常信号アラーム……22
●アラートトーン（状態通知音一覧）……23

■操作編

●送信 …… 24
●受信 …… 24
●無線の呼び出し
セレクティブコール（個別 、グループ）の受信 … 25
コールアラート（選択呼出し/個別、グループ） … 25
ラジオチェック（無線機状態チェック）…… 25
●スケルチ …… 25
●送信出力レベル …… 26
●スキャン
スキャンの開始/停止 …… 26
スキャンボタンの使用 …… 26
トークバック …… 26
不要チャンネルの削除 …… 27
スキャンリストの編集 …… 27
スキャンリストの優先設定 …… 27

●アフターサービスについて …… 29

特　長

●音声品質の向上

音声品質を向上するために以下の機能を標準装備しています。

低レベル拡張（ＬＬＥ）
ＬＬＥ機能は受信時に周囲の雑音を押え、通話を聞き取り易くします。

音声圧縮機能
圧縮機能は音声の品質を向上させます。送信時に音声を圧縮し、受信時に伸張することで、周囲の雑音を少なくします。この機能は音声圧縮機能が設定がされている無線機間の通信時のみ有効です。

●バッテリーセーブ機能

通信の待ち受けの際、常に受信状態で待機するのではなく間欠的に受信することにより、バッテリーの消費電力を抑えバッテリーの持続時間をより長くもたせる機能です。

●プログラマブルボタン

特定のボタン／キーを無線機操作のショートカット・キーとして登録することができます。
詳細はお買い求めの販売店にお問い合わせください。

●スキャン（一般業務のみ）

この無線機には複数の周波数（チャンネル）が設定できます。
一般局の場合に、他の周波数（チャンネル）が使用されているかどうか、または空いているかどうかを確認する機能です。

●トーンスケルチ

音声信号と一緒に特定のトーン周波数を発信し、このトーン周波数を受信できるグループ内でのみ通信できるように通信対象を限定する機能です。

製品および付属品の確認

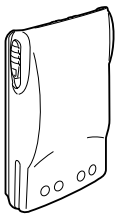
はじめに同梱品を確認してください。

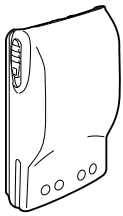
●無線機本体およびアンテナ

※お客様のご注文時の選択により、いずれかが同梱されています。

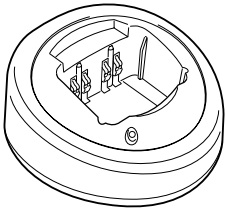
●バッテリー

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー、1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリーのいずれかが同梱されています。

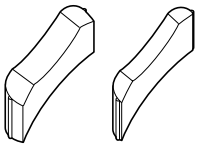




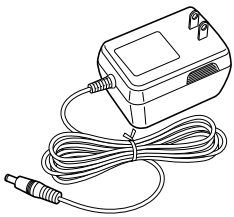
●充電器



充電器



充電器用スペーサー

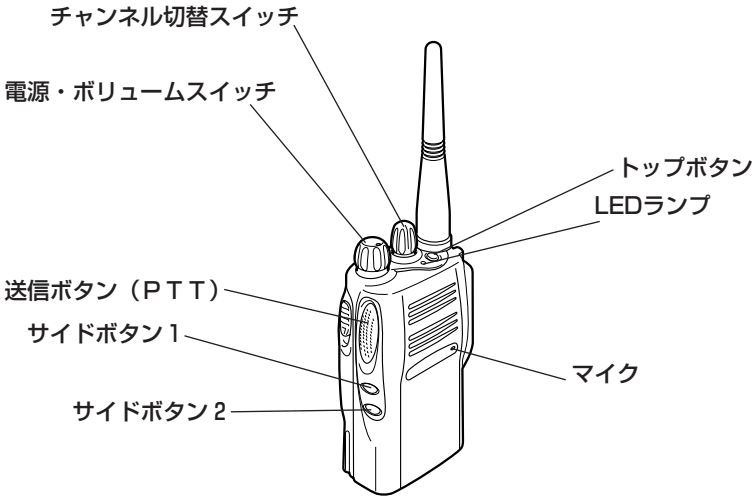


ACアダプタ

●取扱説明書（本書）

各部の名称と機能

■GL2000



●電源・ボリュームスイッチ

無線機の電源のオン・オフおよび音量の調整に使用します。

●チャンネル切替スイッチ

チャンネルの切り替えに使用します。

●送信ボタン（ＰＴＴ）

送信ボタンを押し続けている間送信します。離すと受信状態となります。

●マイク

送信するときはマイクに向かって話します。

●ＬＥＤランプ

送受信の状態、バッテリーの状況、電源の状況、セレクティブコール（個別/グループ）の状況およびスキャンの状況を色と点滅・点灯により表示します。

●プログラマブルボタン

以下のいずれかのボタン/キーを指定して、無線機操作の機能をショートカットキーとして登録することができます。
プログラマブルボタンに指定できるボタン/キーは、
・トップボタン
・2つのサイドボタン（サイドボタン1、サイドボタン2）
のいずれかです。
登録方法の詳細はお買い求めの販売店までご相談ください。

登録したキーに対して、以下の操作をするとショートカットキーとして機能します。
・ ショートプレス　　：すばやく押して離す
・ ロングプレス　　：1.5秒以上押しつづけた後離す
・ プレスアンドホールド　：押しつづけている

機能	ショートプレス	ロングプレス	プレスアンドホールド
非常アラーム信号	非常信号の起動	非常信号のキャンセル	―
モニタ・オープンスケルチ	モニタ	オープンスケルチ	―
ボリュームセット	―	―	ボリューム調整用の連続トーン
スキャン	スキャンのスタート・ストップ	不要チャンネル削除	―
送信出力	送信出力切り替え	送信出力切り替え	―
スケルチ	スケルチレベル深・浅の切り替え	スケルチレベル深・浅の切り替え	―
バッテリーゲージ	―	―	バッテリー状況

バッテリーの取り付け取り外し

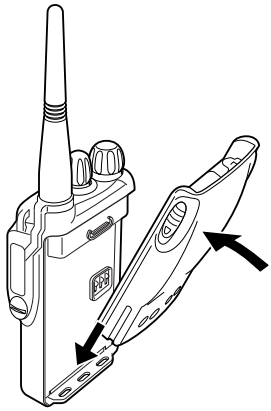
注意：工場から出荷されたバッテリーは輸送時間、在庫期間等によって容量が低下しています。新規に購入したバッテリーは、内部物質の活性化のため、最初の4～6回の充電は必ず14～16時間充電し、容量を完全に回復させてからご使用ください。

●バッテリーを取り付ける

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 本体背面下部の3つのスロットにバッテリーの下部を合わせます。

3 バッテリーの上部を無線機に押し付けるように「カチッ」と音がするまで押し込みます。

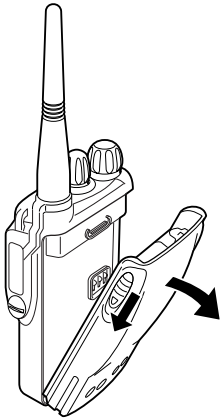


●バッテリーを取り外す

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 バッテリー上部の両側にある２つのラッチを押し下げます。

3 バッテリー上部を無線機本体から外します。



バッテリー

●バッテリーの電圧レベルを確認する

GL2000では、プログラマブルボタンに設定されたバッテリーインジケータボタンを押して、LEDが点灯する色または点滅により、バッテリーレベルを確認することができます。

バッテリーレベル	ＬＥＤ表示
高（満充電）	緑
十分	黄
低	赤点滅
非常低	なし

補足 電圧レベル表示はあくまでも目安です。また、バッテリーの種類、充電状態、気温などの使用環境、機能の設定などによって、LED表示のタイミングやバッテリーの持続時間が多少異なります。
また、バッテリーの残量が少なくなった時、送信時に“ピロッピロッ”とアラームが鳴ります。

注意 バッテリーインジケータが表示されないときは、指定以外のバッテリーが使用されている可能性があります。バッテリーを取り外し、お買い求めの販売店までご相談ください。

●バッテリーを正しくお使いいただくために

GL2000のバッテリーをお使いいただく上で、100%の性能を引き出すための正しい使用方法を解説します。

バッテリー持続時間

バッテリーの持続時間については以下の動作状態を基に計算したもので、実際の使用状況によって変化します。特に送信回数が多くなると使用時間が短くなります

バッテリー	ローパワー	ハイパワー
1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	約10時間	約8時間
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約14時間	約11時間

このとき次のような送受信の比率を想定しています。
送信：受信：待ち受け受信の比率＝5：5：90

充放電寿命（使用環境で差がでます）

各バッテリーの充電および放電の繰り返し回数（サイクル）寿命は次のとおりです。もし、１日数回充放電するような使い方をされる場合には、複数のバッテリーをお持ちになることをおすすめします。

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	約300回
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約300回

使用温度範囲

各バッテリーの使用温度範囲は以下のとおりです。0℃以下の低温で使用される場合には、使用時間が短くなります。

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	5℃～50℃
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	5℃～50℃

過放電について

無線機の電源スイッチを切り忘れたまま長時間放置されますとバッテリーが過放電となり、バッテリーの寿命が短くなる原因となります。長時間ご使用にならないときや容量がなくなってきた場合には、必ず無線機の電源スイッチを切るかバッテリーを無線機から取り外してください。

バッテリーの廃棄方法

古くなったバッテリーを廃棄するときには、お買い上げの販売店へご連絡ください。
バッテリーをごみとして捨てると、環境汚染の原因になります。

大切な資源を守るため、リサイクルにご協力ください。

●充電方法

バッテリーの残量が少なくなったときは、以下の方法で充電してください。
P15「バッテリーの電圧レベルを確認する」を参照してください。

補足 家庭用（100V）から充電します。

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

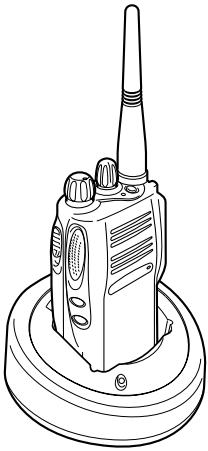
2 充電器のケーブルをACコンセントに差し込みます。

注意 室温（リチウムイオンバッテリーは10℃～30℃）で充電してください。バッテリーは温度センサーが内臓されています。凍結したり冷たくなったバッテリー（10℃以下）または熱くなったバッテリー（40℃以上）に対しては、すぐには充電を始めません。またエアコン等の風が直接あたる場所は避けてください。充電時間が長くなる場合があります。3時間以上赤ランプが点灯している場合にはもう一度設置環境を確認し、差し込み直してください。充電後バッテリーが暖かくなりますが、異常ではありません。

3 バッテリーを充電器に差し込みます。

バッテリーは無線機に取り付けたままでも、また無線機から取り外した単独の状態でも充電できます。急速充電が始まると、充電ランプが赤く点灯します。

注意
- 充電器からバッテリーを引き抜く際、充電器本体を押さえながら引き抜いてください。
- 充電ランプが赤く点滅する場合は、もう一度各端子を確かめ、差しこみ直してください。充電ランプが橙色（スタンバイ）になる場合は、バッテリーが冷えすぎていたり熱すぎます。しばらくすると充電を開始しますのでそのままお待ちください。
- 充電器を使用中に、ラジオやテレビなどに雑音が入る場合には、充電器をラジオやテレビから離してください。



電源分離型急速充電器（バッテリーのタイプに応じたスペーサーをご使用ください。）

注意
- 電源分離型急速充電器で充電する際は、無線機本体にバッテリーを取り付けたまま、あるいはバッテリー単体でも充電することができます。

4 充電器のLED表示により充電の進み具合を確認することができます。

ＬＥＤ表示	状況
緑点灯1回	充電器起動
赤点滅	充電不可
黄点滅	充電器充電待機
赤点灯	充電中
緑点滅	約90%充電完了
緑点灯	充電完了

5 充電ランプが緑色に点灯すると、急速充電完了です。
充電器が緑色の時は、トリクル充電（遅速充電）の状態になっています。

注意 充電ランプが赤色から緑色に切り替わった直後は、バッテリー容量の約80%しか充電されていません。さらに4時間以上充電を続けると、完全に充電できます。
なお、充電ランプが赤色から緑色に切り替わる目安時間は、下表のとおりです。

バッテリー	充電時間
1100mAh大容量ニッケル水素バッテリー	約3時間
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約3時間

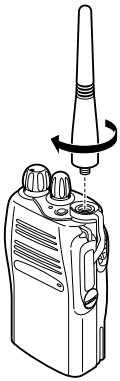
補足 連続充電により充電器が少し暖まった状態で、次の空のバッテリーを差し込んだ場合、まれに充電器の熱により急速充電がすぐに終わってしまうことがあります。このような場合には、もう一度差し込み直すか、いったん充電器のコンセントを抜いてしばらく休止（約1時間）させてください。

アンテナの取り付け/取り外し

●アンテナを取り付ける

1 アンテナコネクタにアンテナの下部を合わせます。

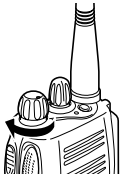
2 アンテナを時計回りにきっちり止まるまで回します。

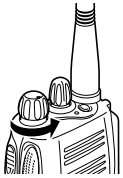


●アンテナを取り外す

アンテナを反時計回りに外れるまで回します。

電源を入れる/切る

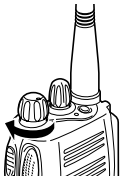


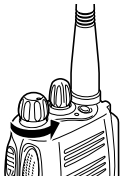


・電源/ボリュームスイッチを時計回りに回すと「ピッピッ」と音がして電源がオンになります。無線機が正常に起動しますと自己診断パスの鳴音と共に緑のＬＥＤが１度点灯します。無線機が異常の場合は異常の鳴音を発します。
・電源/ボリュームスイッチを反時計回りに「カチッ」と音がするまで回すと電源がオフになります。

音量を調整する

相手の声やキー操作音などの音量を調整します。

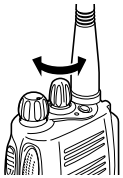




1. ボリュームセットボタンを押して現在の音量を確認します。
   ボリュームセットボタンを押している間、連続トーンを発します。
2. 電源/ボリュームスイッチを左右に回して調整します。
   “カチッ”となるまで左に回すと、電源が切れてしまいます。

チャンネルの切替

チャンネル切替スイッチを回して使用する
チャンネルに合わせます。



非常信号アラーム（販売代理店での設定が必要となります）

事故や災害などの非常事態が起きたときに、非常信号で司令卓に通知したり、鳴音で近くにいる人に非常状態の発生を知らせることができます。

工場出荷時は、非常信号アラームの設定はされていません。非常信号アラームは以下のいずれかの方式が、お客様の選択により販売代理店で設定することができます。

●非常信号（一般業務のみ）

特定のボタンをアラームボタンに指定します。そのボタンを押すと、あらかじめMDCシグナルが設定された指令卓へ非常信号が送られます。
指令卓への非常信号の送信と同時に、鳴音で周囲へ非常状態の発生を知らせます。周囲へ知らせる方法は、以下の3種類から選択して設定することができます。

・指令卓への非常信号の送信と同時に、鳴音を発し、待機状態となる。
・指令卓への非常信号の送信のみ行い、鳴音は発せず、待機状態となる。
・指令卓への非常信号の送信のみ行い、鳴音は発せず、また待ち受け（受信）もしなくなる。

●非常サイレン（複数波簡易/一般業務）

特定のボタンをアラームボタンに指定します。そのボタンを押すと、ボリューム最大で鳴音を発します。

補足 非常サイレンを解除するには、再度非常ボタンを押します。

アラートトーン（状態通知音一覧）

●アラートトーン

無線機本体が自己診断を行った場合や、プログラマブルボタンの機能が設定されているときは、以下のような鳴音で状態を通知、します。

・ピッ□（高い音）
・ブ■　（低い音）

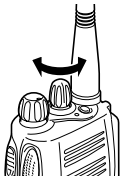
□□＿＿	ピッピッ	自己診断パストーン
■■＿＿	ブー	自己診断フェイルトーン
■□＿＿	ブピッ	昇順音
□■＿＿	ピッブ	降順音

●プログラマブルボタン鳴音

機能	昇順音（ブピッ）	降順音（ピッブ）
スキャン	スキャン開始	スキャン停止
送信出力	ローパワー	ハイパワー
スケルチ	深	浅

送　信

1 チャンネル切替スイッチを回して使用するチャンネルに合わせます。



2 送信ボタン（ＰＴＴ）を押してマイクから２.５ｃｍから５ｃｍ離れたところからマイクに向かって話します。

3 話しが終わったら送信ボタン（ＰＴＴ）を離します。

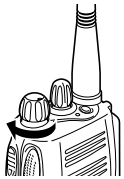
受　信

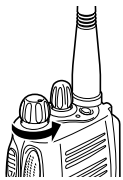
1 無線機の電源をオンにします。

2 ボリュームレベルを調整します。

3 使用するチャンネルに合わせます。

4 必要に応じてボリュームレベルを調整しながら聞きます。





補足 LEDの点灯と点滅

送信時	赤の点灯
受信時	赤の点滅
コールアラート受信時	黄の点灯
スキャン時	緑の点滅

無線の呼び出し

●セレクティブコール（個別、グループ）の受信

セレクティブコール（個別通信）を受信したとき、鳴音を発しＬＥＤが黄色で点滅します。PTTを押して応答してください。

●コールアラート（選択呼出し/個別、グループ）の受信

相手に呼び出しをかけても応答がない時､相手の無線機の鳴音を鳴らすことができます。コールアラートを受信すると、応答するまであるいは他の操作でキャンセルするまで鳴音を鳴らしつづけます。

注意 ・対象となるのは、最後に受信した呼び出しとなります。
・コールアラートが解除されるまで、個別通信は受信することができません。

補足 応答がない場合は、通話相手が電波の届かない場所にいるか、電源が入っていない場合が考えられます。

●ラジオチェック（無線機チェック）の応答

相手を呼び出す前に相手の無線機が電波の届くところにいるかどうか確認することができます。

GL2000はラジオチェックの信号を受信すると、自動的に応答信号を返信します。

スケルチ

特定のチャンネルで不要な電波を受信したり、あるいは周囲の雑音により本来の通信に支障をきたす時、スケルチレベルを深くすることができます。

補足 プログラマブルボタンを押すと、スケルチの深い浅いが切り替わります。

送信出力レベル

送信出力レベルを 2 通りに設定することができます。ハイパワーで送信すると通信距離は伸びますが、バッテリーの消耗はローパワーに比べ早くなります。ローパワーで送信すると、バッテリーの消耗を節約することができますが通信距離はハイパワーと比べて短くなります。

補足 プログラマブルボタンを押すと、送信出力レベルが切り替わります。

スキャン（一般業務用のみ）

GL2000には、16のチャンネルを設定することができます。
設定されたチャンネルをスキャンするために、スキャンボタンを設定することができます。
スキャンを開始させると、スキャンリストに登録されているチャンネルをスキャンし、受信しているチャンネルに自動的に切り替わります。
スキャン機能を動作させるボタンをスキャンボタンと呼びます。

●スキャンの開始/停止

スキャンを開始するには、スキャンボタンを使用します。
また、スキャン中はＬＥＤが緑で点滅します。この点滅はチャンネルを変更すると停止(消灯)します。

スキャンボタンの使用

1 スキャンボタンを押すとスキャンを開始します。

2 再度スキャンボタンを押すとスキャンを停止します。

●トークバック

トークバックオプションを設定すると、無線機のチャンネル設定に関係なく、スキャン時に受信したチャンネルのホールドタイム（保持時間）中に、そのチャンネルで送信を開始することができます。詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください。

●不要チャンネルの削除

スキャンリストで設定しているチャンネルの中で、ノイズや混信がひどくて使用できないチャンネルをスキャンリストから削除することができます。

1 不要チャンネルで停止しているときスキャンボタンを鳴音が鳴るまで押しつづけます。

2 スキャンボタンを離します。

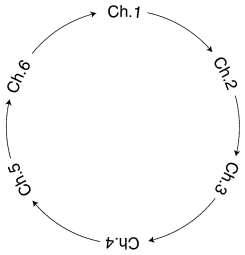
注意 優先スキャンチャンネルは削除できません。また、少なくとも 1 チャンネルはリストに残す必要があります。

●スキャンリストの編集

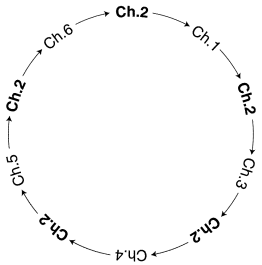
スキャンリストの編集が必要なときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

●スキャンリストの優先設定

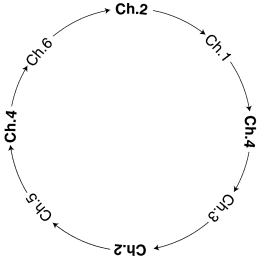
頻繁に通信を行うチャンネルを特別にチェックすることができます。 2 つの優先チャンネルを設定することができます。 6 つのチャンネルを通常のスキャンを行ったときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 に設定したときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 およびチャンネル 4 を優先の 2 に設定したときは次のようになります。



注意 優先の 1 あるいは 2 に設定していないチャンネルでスキャンが停止している間も、優先のチャンネルはスキャンされます。このとき優先チャンネルで受信すると優先チャンネルでスキャンは停止します。

アフターサービスについて

GL2000は、お買い求めの販売店で定期的に点検を受け、常にベストな状態でご使用ください。

1 保証期間について

(i) 無線機本体

保証期間は、お客様が運用を開始された日より 2 年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。当社修理規定に基づき、無償で修理いたします。

(ii) バッテリー

保証期間は、お客様が運用を開始された日より 6 ヵ月です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。無償で交換をいたします。なお、交換品の保証期間は、交換時期に関係なく、最初のお買い上げより 6 ヵ月が無償保証期間となります。

2 保証期間経過後の修理

お買い求めの販売店にて修理（有料）いたしますのでご相談ください。